

球磨村：「脱炭素×創造的復興」によるゼロカーボンビレッジ創出事業

脱炭素先行地域の対象：三ヶ浦地区・神瀬地区・一勝地地区全域、住生活エリア（災害公営住宅が大規模整備される村総合運動公園一帯）、
全村有施設、避難所に指定する民間業務施設群

主なエネルギー需要家：住宅(戸建て・集合合計937世帯程度)、村有施設26施設、高齢者福祉施設等の民間業務施設15施設

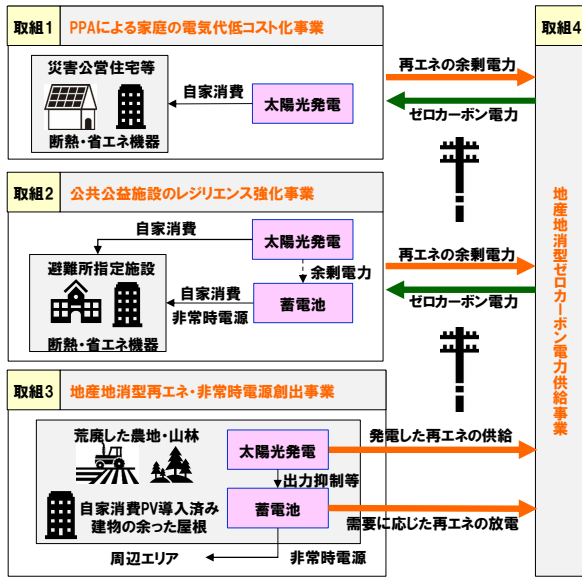
共同提案者：株式会社球磨村森電力、球磨村森林組合

取組の全体像

三ヶ浦地区・神瀬地区・一勝地地区の全域と住生活エリア（災害公営住宅が大規模整備される村総合運動公園一帯）の民生需要家及び全公共施設等について、株式会社球磨村森電力と連携して、自家消費型太陽光・蓄電池をできる限り導入するとともに、**荒廃農地や林地等を活用した太陽光**発電による電力等を供給することにより脱炭素化を図る。また、同社と連携して、**林業加工施設など産業部門の脱炭素化**を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- 先行地域の住宅・村有施設・民間施設について、**地域新電力「株式会社球磨村森電力」**が設置者となって、自家消費用の太陽光発電（屋根置き）や相対電源用の太陽光発電・蓄電池（屋根置きや**荒廃農地・林地等を活用**）を設置するとともに、各需要家との契約を推進し再エネ電力を供給
- 建物屋根の余剰スペースや荒廃農地・林地を活用して太陽光発電（1,987kW）・蓄電池を導入



2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- 令和2年7月豪雨による大規模被災から生業を再建した林業加工施設3施設について、屋上に太陽光発電設備・蓄電池を設置し、自家消費・相対契約による再エネ電力を供給し、林業の加工段階の脱炭素化を推進
- 荒廃農地等にソーラーシェアリングを導入し、再エネ電源を確保するとともに、栽培しやすい牧草などを近隣農家へ供給
- 小中学校で使用しているスクールバス5台、役場公用車10台をEV化するとともに、充電インフラを計9カ所設置

3. 取組により期待される主な効果

- 令和2年7月豪雨からの復興**が最優先課題となっていることから、集合災害公営住宅をはじめ自家消費型太陽光発電設備を導入することにより、住民に**安価な電力を供給**しつつ、併設する業務施設の**レジリエンス強化**
- ソーラーシェアリングにより農家の高齢化に伴い荒廃した農地・林地を再生し、**獣害の減少や地域コミュニティを維持**するとともに、蓄電池を導入することにより**水害時に孤立しやすい地域の非常用電源を確保**

4. 主な取組のスケジュール

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2030年度
村有施設太陽光設置(自家消費用)	実施						
災害公営住宅断熱設備導入		実施					
村有施設太陽光設置(相対電源用)			実施				
家庭向けを中心とした電力供給先の拡大				実施			
スクールバス・EV化、EV充電設備設置					実施		
エネルギーマネジメントシステム導入						実施	